

門司掖済会病院広報誌

なごみ

〒801-8550

北九州市門司区清滝1丁目3番1号

代表電話 093-321-0984

F A X 093-331-7085

公益社団法人日本海員掖済会  
門司掖済会病院

## 新年あけましておめでとうございます

新型コロナウイルスは、日本では収束へ向かうかと思われましたが、新たな変異株オミクロンの出現で、また先行き不透明となりました。昨年はコロナに明け暮れた、皆様方にとりまして大変な1年であったと思いますが、当院には明るい話題もありました。

阿部功名誉院長が秋の叙勲で、その長年のご功績に対して瑞宝小綬章を受けられたことと、同じく秋に当院がこの清滝の地に移転して100周年という記念すべき時を迎えていたことです。これもひとえに皆様方の長年に渡るご指導とご支援の賜物と、職員一同心より感謝申し上げます。

この機会に少し当院の歴史を振り返ってみたいと思います。

日本海員掖済会は、1880(明治13)年、厳しい環境におかれた船員を支援する目的で、近代郵便制度の基礎を作り上げた前島密(NHKの大河ドラマ『青天を衝け』にも登場しました)や明治政府の要人を中心に創立されました。

門司掖済会病院は120年前の1902(明治35)年に旧門司市ケンメイ迫(八幡町)に門司出張所として開設されました。その後辻畑に、1921(大正10)年10月には現在地の門司区清滝に移転しました。昭和2年には行政の要望により、船員やその家族に加えて一般市民の診療も開始し、現在に至っております。

門司港は九州の玄関口として、また石炭の積み出し港として九州随一と言っても過言でないくらい栄えた街でしたが、その後早く人口減少の波が訪れ、さらに少子高齢化も進んでいます。

このような状況で、病院は病を治すのはもちろんですが、一人一人の皆様が出来るだけ長くご自宅など住み慣れた地域で、豊かで意義のある時間を過ごしていただくことにつながるような医療を行って行く必要があると強く感じております。当院でも、掖済(脇に手を添えて助ける)の精神に基づき、地域とともに医療・介護・住まい・生活支援を一体的にご提供できましたらと考えております。

本年もどうぞよろしく  
お願い申し上げます。

## 叙勲にあたり

名誉院長 阿部 功

この度はからず令和三年秋の叙勲で受章の栄に浴しましたところ、ご丁寧な御祝意と御激励を、掖済会病院職員を始め、患者様、地域の皆様から賜り誠に有難く厚く御礼申し上げます。

この栄誉はひとえに職員の皆様や海事関係の皆様様の多年にわたる御指導、御支援の賜と深く感謝申し上げます。今後はこの栄誉に恥じる事のないよう一層精進いたす所存でございますので相変わらぬ御鞭撻のほどをお願い申し上げます。



院長

ふじい けんいちろう  
藤井 健一郎

# 門司掖済会病院 歯科口腔外科を紹介します！



さくらい たくま  
櫻井 拓真  
歯科口腔外科  
医長

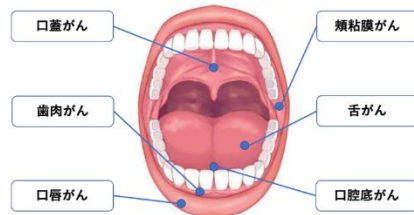
当科は門司歯科医師会との連携バックアップ体制の下、一般の歯科医院からご紹介いただいた患者さんを中心に治療を行っています。特に口腔外科関連の疾患(口腔がん、親知らず、炎症、外傷、顎関節症、粘膜疾患、嚢胞や腫瘍など)に力を入れて診療を行っており、全身疾患や身体障害、歯科恐怖症など一般の歯科医院では治療困難な患者さんにも対応しています。門司区の地域医療に貢献すべく、スタッフ一丸となって安全かつ質の良い治療を提供しますので、よろしくお祈いします。

## 口腔がんってどんな病気？



「口腔がん」は、口の中と唇にできる「がん」ですが、近年有名な芸能人が公表した口腔がんの一種である「舌がん」になり治療したことは、記憶に新しいと思います。国内で「口腔がん」と診断された患者さんは年々増えており、年間10,000人以上で歯や適合が悪い被せ物による機械的な刺激の他、喫煙、飲酒、食物による科学的刺激の暴露などが原因と考えられています。初期のうちに発見すれば、後遺症もほとんど残ることはなく治すことができ、5年生存率は90%以上との報告もあります。だからこそ、「早期発見」が重要になります！！

口の中全体を「口腔」といい、  
ここのできるがんを総称して「口腔がん」と呼びます。



できる場所によって上記の様に分類されます。

## 下の症状が1つでもあれば、専門医へ

- 口内炎が2週間経っても治らない。
- 舌、歯肉、頬の粘膜に白い斑点や赤い斑点がある。
- しこりや潰瘍ができたがなかなか治らない。
- 舌などにしびれや麻痺感、出血する傷がある。
- 舌が動かしにくく、急に物が噛みづらくなった。
- 顎が腫れて入れ歯が合わなくなった。



## 洋上救急訓練に参加して

看護師 大野 真優

12月7日、北九州空港にある海上保安庁で行われた洋上救急慣熟訓練に参加させていただきました。

様々な分野の方が参加されており、洋上救急はあらゆる面で必要とされることがあると感じました。

また、講義を受け、自分が想像していたよりもハードな現場環境で、病院のように設備が充実している訳ではない中で、傷病者に対して適切な処置を最速で行わなければいけ

ないことに大変さを感じると共に緊張感を持ちました。

訓練に参加できたことはとても貴重な経験となりました。



## 医師の交代

入職: 山崎 景介 (R3.9.1)  
退職: 菰田 圭佑 (R3.9.30)

腎臓内科の  
山崎景介です。医師13年  
目です。一生懸命頑張ります  
のでよろしくお願いします。

趣味: 映画、PCゲーム



やまさき けいすけ  
山崎 景介